



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

北海道支部

もっと伝えたい。北海道の赤十字のこと。

赤十字ほっかいどう

赤十字の活動資金へご協力をお願いいたします



水を入れると10kgにもなるポリタンクを
水汲み場から家まで運ぶ子どもたち
(ルワンダ共和国 ニャビハマ村)

CONTENTS

ルワンダ共和国調査報告	2P	クリーン活動で「奉仕」の心を育む	6P
赤十字出前講座	4P	わが町の赤十字奉仕団	7P
台風19号災害救護活動	5P	赤十字北海道大会告知	8P

「日本赤十字社・ルワンダ赤十字社 二国間事業」調査報告

最近、ニュースで取り上げられる「気候変動」。この「気候変動」を原因とした自然災害が今、世界中で起きています。

自然災害は農業の生産性低下や土地を追われた人々の難民化など、時として人道危機へ繋がる危険性があります。

日赤では、昨年12月からアフリカのルワンダ共和国を対象に地元赤十字社とともに「気候変動」に対する支援事業を開始しました。北海道支部は、開始直前の9月29日～10月11日の13日間、松井宏明 企画広報係長を現地へ派遣し最終調査に同行しました。ここでは、支援対象のニャビハマ村・ルリンビ村の状況について報告します。

1. ルワンダ共和国について

アフリカの中部に位置し人口1,220万人・面積2.63万km²、アフリカで最も人口密度が高い国です。

1994年に起きた「ルワンダ大虐殺」では、80万人～100万人が犠牲になったと言われていますが近年は首都キガリを中心に経済成長を遂げ「アフリカの奇跡」と呼ばれています。

一方、首都と地方の格差は広がり、乳幼児死亡率やマラリア感染率の高さ、水道普及率の低さ、さらに慢性的な貧困など様々な社会問題を抱えています。



高台から見る首都キガリの高層ビル

2. 気候変動の影響

人口の8割が農村部に暮らし約7割が小規模農業です。

気候変動の影響で豪雨による地すべりや不規則な降雨により田畑やバナナ園の水没や流出が起きています。

3. 支援事業について

経済的に特に貧しい郡の5村を対象に気候変動の影響と考えられる災害や感染症、貧困などの問題に住民自ら回復・対応できる力を高め改善することを目的としています。

支援は2019年12月から2024年6月までの期間で、主な活動は「簡易水道の設置」、「トイレの整備」、「保健衛生知識の普及」、「防災教育」などを行います。



ポリタンクに水を入れる子ども。水を入れると10kgの重さになる

4. ニャビハマ村の水汲み場

主要道路から200～300m傾斜地を下りた谷底にあります。

調査時も、多くの子どもたちが水汲みに来ていました。

その中の一人、「キゼレジャンボ君(8歳)」に話を聞きました。

彼は「水汲みは自然なことで、大変だが日々やらないといけないことなのでやっている」と話していました。

また、「楽しい時は、勉強している時で好きな科目は算数」、「将来は、国を守る軍人になりたい」と話していました。

この地域の子どもは、丸一日、学校に行くことは難しく、午前中は水汲み、午後は学校に行く生活をしています。



水汲みに来ていたキゼレジャンボ君(中央)

5. ルリンビ村

村には給水設備や学校・病院はなく赤土で起伏のある道のりを徒歩で数十分かけて通わなくてはなりません。

トイレは、三方が土壁で囲まれ屋根や扉はなく、地面に穴があり足場として丸太が3本渡しており異臭を放ち虫も湧く不衛生な環境です。

5人家族の家屋を調査しましたが、土壁と木板の屋根で建てられ広さは20㎡ほど、床は土がむき出しで小さな部屋が3部屋ありました。

夜はゴザを敷き、政府支給のマラリア対策の蚊帳を使用して寝ます。



屋根も扉もない村のトイレ



家屋は土壁で造られている。調査の様子を伺う住民



家屋の中は、土がむき出しでゴザが敷いてあった

6. 支援ニーズについて

今回の調査で最もニーズが高かったのは飲料水の確保でした。

水汲み場まで一日何往復もしてポリタンクを運ぶ重労働は、主に女性や子どもの役割であり水汲みが子どもの日課であるため授業への遅刻・欠席や高い中退率を招く原因となっています。

また、トイレも重要課題であり不衛生、害虫発生による感染症の発生さらにプライバシーが確保されていない造りなど、夜間の使用に危険がともなう問題があります。



農作物を頭のにせて運ぶ住民(ルリンビ村)

7. 調査を終えて

調査に同行したボランティアに「なぜ、赤十字ボランティアを行っているのか?」と質問したところ「弱い人をはじめ様々な人を助けたいから」と照れながら答えてくれました。

答えはシンプルですが赤十字に携わる多くの方々の根底にある想いは同じだと思います。

同じ想いを持つ仲間が世界中で活動していることは誇らしく、頼もしく感じました。

現地で見聞き・経験したことを道内で多くの方々に伝えていくことで国際活動の理解へ繋げていきたいと思っています。



地元赤十字社職員・ボランティアとともに(中央 松井係長)

新たに救急法・健康生活支援講習の指導員が誕生



新赤十字救急法指導員18名



新健康生活支援講習指導員11名

9月から12月にかけて、救急法と健康生活支援講習の2講習で指導員養成講習を開催し、このたび、新たな指導員29名が誕生しました。

救急法は、「JRC蘇生ガイドライン2015」を反映した新たな救急法講習になってから初めての指導員養成講習となり、道内赤十字奉仕団で積極的に活動を行っている奉仕団員18名が合格しました。

健康生活支援講習は、家庭や地域における高齢者の健康な生活を支える地域活動の担い手として、道内赤十字施設の職員11名が合格しました。

新たに指導員となった方々には、今後も研鑽を重ね、地元での各講習の普及促進に努めていただき、また、講習普及を通して赤十字事業への理解者・協力者など赤十字の輪を更に広げていただくことを期待します。

赤十字出前講座

11月25日・27日の2日間、青少年赤十字加盟校である札幌山の手高等学校で出前講座を行いました。

25日は、「いざという時、自分は何ができるのか」というテーマのもとグループに分かれ「ブラックアウト体験」、「毛布ガウンづくり体験」など体験学習を行いました。

さらに、「もし自分たちが避難所生活をするようになったら」を想定して北海道胆振東部地震でも使用された「段ボールベッド」づくりを体験し災害について学びました。

27日は、札幌市点訳赤十字奉仕団の協力のもと実際に自分の名前を点字で書くなど点字体験をしました。

2日間を通して生徒からは「自分は大丈夫という考えではなく、明日かもしれないと考えながら生活していくことが大切」や「手助けの大切さがよく分かり、今後必要としている人がいたら助けてほしい」との感想も聞かれ、「思いやり」や「備え」の大切さを学びました。



段ボールベッドを組立て座り心地を確認しました

台風19号災害 支部支援要員・救護班を宮城県へ派遣



北海道支部支援要員の出発式

10月12日に東日本へ上陸した台風19号は、大雨による河川の越水や堤防の決壊など多くの地域に甚大な被害をもたらしました。

北海道支部では、日赤宮城県支部の活動強化のため支援要員として職員2名（看護師・主事）を派遣し10月15日～19日の5日間、日赤宮城県支部災害対策本部で救護活動を行いました。

あわせて10月19日～23日の5日間、宮城県丸森町へ旭川赤十字病院救護班を派遣し救護所や巡回診療活動、こころのケアのニーズ調査を行いました。

ここでは、現地で救護活動を行なった旭川赤十字病院救護班からの報告をご紹介します。

《宮城県丸森町での救護活動》

丸森町は阿武隈川の流域で浸水被害が大きく、被災から数日経過していましたが家屋からごみや泥を掻き出す住民の姿、頭の高さまで浸水跡が残る自動販売機、大きなグラウンド一面に廃棄された災害ごみの量には思わず息を飲みました。

主な活動は、丸森町役場内に開設された救護所業務と同町でのこころのケア活動です。

救護所には1日20～30名程度、呼吸器系疾患や後片付けなどによる外傷で訪れる方が目立つとともに地元の大きな病院の診療がストップしていたことから定期処方が切れてしまったという方もいました。

こころのケア活動では、実際に避難所を訪問し、避難者との会話からこころのケアのニーズ把握を行いました。

また、役場職員など支援者の疲弊が激しいことから、丸森町役場内にリラックスルームを開設し、支援者支援も行いました。

現在、台風被害の報道は少なくなった印象ですが、家屋の浸水や断水等により未だ避難所生活を送る被災者も多くいらっしゃいます。

一刻も早い復興を心より祈っております。



自動販売機の上段部に浸水跡が残る



救護所内の様子

夢の実現へ踏み出します ~伊達・浦河赤十字看護専門学校で戴帽式~



キャンドルの灯火に夢の実現をこめて

この春、伊達・浦河両赤十字看護専門学校に入学した新入生が10月25日（浦河）、11月1日（伊達）の両日、晴れて戴帽式を迎えました。

戴帽式は半年間の基礎実習を終えた1年生が、これから本格的な病院実習を迎えるにあたり、看護師としての一步を踏み出すためにナースキャップを受け取る節目の行事で、今年度は伊達10名、浦河24名の学生が戴帽されました。

ナースキャップを受け取った学生は、看護師という職業の役割と責任の重さを感じるとともに、自らの夢の実現に向けてこれから病院で臨床実習に励むこととなります。

クリーン活動で「奉仕」の心を育む

日本赤十字社小樽保育所では、青少年赤十字活動として毎年6月と10月に保育所近隣の公園などのクリーン活動（ごみ拾い）を行っています。

10月11日に、3歳～5歳までの園児33名と引率者5名、さらに小樽市赤十字奉仕団員2名にも参加いただき、総勢40名で「小樽公園こどもの国」でクリーン活動を行いました。

当日は天気も良く、保育所からこどもの国まで、交通ルールを守り、車に注意しながら、みんなで楽しく歩きました。

こどもの国に到着後、4歳・5歳の園児はゴミ拾いに精を出し、3歳児は、滑り台やブランコの遊具で遊びました。

もちろん、4歳・5歳の園児もゴミ拾い終了後は、遊具でめいっぱい遊びました。

今後も、クリーン活動を通じて青少年赤十字の実践目標である「奉仕」の心が育むことが期待されます。



元気いっぱい、公園をきれいにしました

「もちつき大会」で火の用心



重い杵で頑張ってもちつきをしました

12月13日、釧路さかえ保育園で「防火もちつき大会」が行われました。この行事は、地元の幼年消防クラブに入っている同園の年末恒例行事で地元消防署員・団員、園児の保護者の協力のもと行われています。

はじめに子どもたちが「ストーブやライターはイタズラしません」と誓いの言葉の後、もちつきがスタート。

地域の方にお手伝いしてもらいながら0歳児から6歳児まで重たい杵を頑張って振り上げ自分の年の数だけ「べったん、べったん」もちつきをしました。

つきたてのおもちは、きなこもちと砂糖醤油もちにして給食で美味しく食べ、新年の無病息災を願いました。

わが町の赤十字奉仕団

地域に根ざしたさまざまな活動をしている赤十字奉仕団。その中からいくつかの奉仕団の取り組みをご紹介します。

～上西春別赤十字奉仕団～

わが町別海町には、赤十字奉仕団が2つあり、主に西部地区で活動しているのが上西春別赤十字奉仕団です。

結団は昭和44年5月であり、今年で50周年を迎えました。

上西春別赤十字奉仕団では防災訓練での炊き出しの実演をはじめ、青空市や文化祭、チャリティーバザーなどの地域行事では義援金などの募金活動を実施しています。

また、福祉まつりや産業祭では2つの奉仕団共同で、カレーライスや豚汁、フランクフルトを販売し、売上の一部を義援金として被災地へお送りしています。

募金活動では、アンリーくんのストラップと共に団員手作りのグッズを参加者にプレゼントしています。

そのほか、野付半島の雑草除去作業や敬老会の準備・会場案内のお手伝い、福祉施設で使うウエスの裁断作業を行っています。

毎年地域で行っている食事交流会では75歳以上の方を招待し、すべて手作りの料理でおもてなしするとともにビンゴゲームや玉ねぎパークゴルフをして過ごしました。

皆さん毎年楽しみにしていますので、これからも継続していきたいと考えています。

団員は、現在12名と少数ではありますが、団員研修や地域に寄り添った活動を無理せず続けていきたいと思っています。



たまねぎパークゴルフを楽しみました



福祉まつりでの活動

たくさんのご協力ありがとうございました

活動資金にご協力いただき、表彰された方々を紹介します(敬称略)

金色有功章

- [支 部] 有限会社熱管理サービス
三宅 翔哉
- [土別市] 大西 幸男
- [根室市] 佐藤 俊彦

社長感謝状

- [支 部] 中村 裕貴
よつ葉乳業株式会社
株式会社ツルハホールディングス
- [釧路市] 株式会社阿部新聞店 代表取締役社長 岡澤 利寿
- [北見市] 北見茶道連盟
- [南幌町] 吉田 政夫・瞳
- [音威子府村] 中尾 稔

銀色有功章

- [支 部] 角田 和将
- [江別市] 医療法人社団啓史会 おおあぎ鈴木ファミリークリニック
- [三笠市] 武部建設株式会社
立石興業株式会社
株式会社富樫組
北燃商事株式会社
- [根室市] 村 良治

(R1年7月～R1年10月表彰伝達分)

スキーパトロール競技大会を名寄市で開催



昨年度の競技大会の様子

2月29日～3月1日、名寄ピヤシリスキー場を会場に『第48回北海道赤十字スキーパトロール競技大会』が開催されます。

この大会は、全道各地で活躍するスキーパトロール員の技術の向上を図り、併せて相互の親睦を密にすることを目的に毎年開催されている行事です。

29日には開会式と交流会、1日には寒冷の環境下で受傷した傷病者への応急手当の技術とチームワークを競う「救急法実技競技」、アキヤボードの機能を生かし、傷病者をいかに安全かつスピーディーに搬送するかを競う「アキヤ操作技術競技」、救急法実技とアキヤ操作を組み合わせた「総合技術競技」の3種目が行われます。

競技は自由に見学できますので、興味のある方は是非スキー場にお越しください。

第33回赤十字北海道大会 北見市で開催

赤十字運動への理解促進と社員（会員）の増強を図り、赤十字事業の充実と社勢の発展を期することを目的とした標記大会について、以下により開催を予定しております。

当日は、日本赤十字社名誉副総裁・宮妃殿下のご臨席を仰ぎ、有功章のご授与をいただく予定です。

大会受賞の対象となる活動資金（社費（会費）・寄付金）は、令和2年6月上旬頃まで受け付けておりますので、詳しくは、最寄りの日赤地区（本部）・分区（市町村役場または社会福祉協議会内の日赤窓口）または日赤北海道支部までお問い合わせください。



活動資金にご協力をいただいた方への表彰(前回大会)

〈開催予定〉

開催予定日:

令和2年10月1日(木)

開催予定地:

北見市(北見市民会館)

大会内容:

- (1) 赤十字関係物故者慰霊祭
- (2) 式典
 - イ. 有功章御授与
 - ロ. 功労者特別表彰
 - ハ. 体験発表
- (3) アトラクション

〈日本赤十字社の表彰制度〉

- 感謝状・表彰状… 活動資金として10万円以上協力いただいた場合（一時または累計）
- 銀色有功章 … 活動資金として20万円以上協力いただいた場合（一時または累計）
- 金色有功章 … 活動資金として50万円以上協力いただいた場合（一時または累計）
- 社長感謝状 … 金色有功章受章後、新たに活動資金として50万円以上協力いただいた場合（一時または累計）

発行日 令和2年1月24日

発行元



日本赤十字社 北海道支部
Japanese Red Cross Society

札幌市中央区北1条西5丁目
TEL:011-231-7126



公式facebookで情報発信中!

<https://www.facebook.com/hokkaido.jrc/>

日赤北海道



<http://www.hokkaido.jrc.or.jp/>